

主に指導する教科・領域 作業学習

実 態	目 標	
<p>日常会話は生活年齢相応にできるが、必要以上に大声を出したり、深く考えず行動をしたりすることがある。学習の習熟度は小学4年生程度である。一斉指導の内容は理解することが難しいため、思い込みや思い違いが多い。作業学習では、細かな作業も丁寧に行うことができるが、初めての内容にはしりごみをしたり、集中力を切らせてしまったりすることがある。</p>	長 期	与えられた仕事に粘り強く丁寧に取り組むことができる。
	短 期	ミシン縫いの作業において、同じ幅で決められた位置まで縫い続けることができる。
	<p style="text-align: center;">手 だ て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ミシン縫いの作業が、コースター作りにおいて重要な仕事であることを教科書を用いて理解し、作業に取り組む。 ・ 布の端からの幅を一定にするために、目印となるものを提示する。 ・ 一定の時間で巡回し、励ます言葉を掛ける。自信がもてるようになったら、言葉を掛ける間隔を空ける。 	

< 実 践 事 例 > 単元「オリジナル・コースターを作ろう」(生徒B)

★コースター作りの手順を、教科書を用いて理解した。

Bが担当するミシン縫いの作業がコースター作りにおいて、重要な工程であることを丁寧に説明した。

★以下の工程を生徒の実態に合わせて分業制で行った。

- ① 2枚の布を合わせる。
- ② 2枚の布の両端をミシンで縫い合わせる。
- ③ 布を裏返しにして、開いている両端を折り込む。
- ④ 折り込んだ両端をミシンで縫い合わせる。
- ⑤ アイロンプリントをする。



< 2枚の布をミシンで縫い合わせる >

Bは、ミシン縫いに取り組んだ。

布の両端から5mmのところを縫い合わせる。初めは斜めになってしまったり、5mmが3mmや1cmになってしまったりした。注意されるたび、「何で」「もう、嫌だ」と投げやりな言葉を口にしながら、やる気のない行動を見せた。



そこで、ミシンの布押さえの金具の幅が約5mmであるのを利用して、5mmの縫い幅に縫えることを知らせた。

< 完成したオリジナルコースター >

その一点に集中することにより、布の端から5mm内側を布に平行に縫い合わせることができるようになった。うまく縫い合わせできた布を教師に認められて、Bは、うれしそうな表情を見せた。自分でも出来栄のよさに納得していたようであった。うまくできるようになってからしばらくの間は、一つ出来上がるごとに教師に見せに来ていたが、10分おき、30分おきと見せに来る間隔が次第に延びて、1か月後には2時間の作業時間の間、黙々と作業できるようになった。

評 価	今後の課題
<p>布押さえの金具を活用することで、同じ幅で決められた位置まで縫い続けることができた。作業がうまくできる視点を与えることで、自信をもたせることができ、集中力を持続させることができた。自分の仕事が大きな役割を果たしていることを実感し、達成感を味わうことで意欲的に取り組めるようになった。</p>	<p>実際の就労の場面では、本人の得手とする作業ができるとは限らない。今回のような作業経験で集中力を養いながら、どんな仕事に対しても、あきらめずに根気強く取り組む態度を養っていきたい。</p>